

Kaori International Japan

環境ビジネスで現地進出支援

中小企業と中央アジアの懸け橋に

Kaori International Japan (川崎市川崎区港町、☎044・222・5332)は、環境ビジネスで中央アジアと日本の中小企業の懸け橋になるべく奮闘する。経済成長を遂げる中央アジア5カ国は、周辺国を含めると人口約1億人を擁する巨大市場。中国や韓国企業もビジネスチャンスを探り、相次ぎ進出している。それに対し、同社のマイマイティジャン・アブラ社長は「日本製品の評判は良いため、商機は十分にあります」とし、アフターコロナを見据えた進出サポートを展開する。

アブラ社長は1998年来日、麗澤大学国際経済学部を卒業後、日本と中国のIT企業や商社に勤務。その経験を生かして2016年6月に起業した。主に中央アジア向けに環境ビジネスの海外展開を行っている商社だ。

中央アジアのカザフスタンとウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの5カ国は所得水準が高まっており、人口も約7000万人。

しかし、環境ビジネスは未成熟であり、中でも医療機関で使われる点滴や純水、インフラでも上水の製造装置に対するニーズは高いという。

そこで同社はアブラ社長らのネットワークを生かし、環境技術や関連製品を持つ中小企業の進出を支援。具体的には、現地企業との合弁会社設立までをサポートしている。「現地の労働



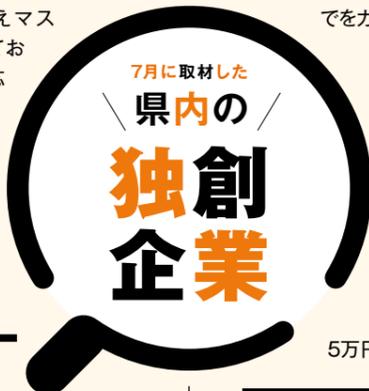
力と場所、それに日本企業の設備・技術を融合させれば商機はあります。日本企業の存在感を示していきたいです」(アブラ社長)と話している。

■第二波、第三波備えマスク備蓄

一方、同社は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、マスク不足を解消するため中国から調達。川崎市役所や平塚市役所へこのほど寄付した。

また、社内では第二波、第三波に備えマスクを備蓄しており、品質に

3種類の販売も可能という。数量、価格について問い合わせは同社(info@kaori-international.co.jp)まで。



茂光製作所

技術力で図面なくとも復元

部品修理の駆け込み寺に



茂光製作所(相模原市中央区宮下、☎042・774・3416)が、部品修理の駆け込み寺になっている。機械加工を軸に、最新鋭加工機によるデジタルとアナログのものづくりの融合を進める同社は、企業や一般消費者を問わず部品修理を受け付けている。破損した部品を持ち込めば、図面がなくても同じものを製作、修理する。

愛用工具の刃物が壊れ修理を依頼する大工や、紛失してしまったフォークリフトのねじをゼロから製作してほしいといった依頼まで、実にさまざまだという。中には高額な金属製オブジェの修復を頼みにやってくる一般の人もある。「景気が悪くなると、修理の仕事が増えます」と茂木康

則社長。あらゆるお困りごとに快く応じている。

本業では「樹脂以外の素材ならほとんど対応します」(茂木社長)とし、毎年設備を1台ずつ入れ替えている。仕事を選ばない「コンビニエンス・ファクトリー」を目指し、最短で当日納入する特急生産も行っている。

社長さんが知っておきたい 冠婚葬祭のマナー

「夏の伝統行事」のお盆ですが、

子供のころは、親と一緒にいたことも、いざ自分で用意する立場になったとき、いつ、何をどう用意すればいいのか、分からない方も多いのではないのでしょうか。そこで、お盆について、よくあるご質問とあわせてご紹介いたします。

Q. そもそもお盆って何ですか？

A. お盆とは、ご先祖様の精霊を1年に一度、自宅にお迎えし共に過ごすことで、日頃の感謝を伝え、ご冥福を祈り供養をする行事のことです。

Q. お盆の時期は決まっていますか？

A. 地域によってお盆の時期は異なりますが、旧暦と新暦によっても分かれます。東京や神奈川など一部の地域では、7月13~16の4日間に行うことが多いのですが、全国的に最も多いのは、8月13~16の4日間といわれています。

Q. お盆を迎えるにあたって準備することは何ですか？

A. まずは、ご先祖様をお迎えするための「おもてなし」として、事前にお墓と仏壇を丁寧に掃除しておきましょう。次に、初物の果物や野菜、亡くなった方の好物などを用意し、仏壇や仏壇の前にお供えしましょう。

そして、ご先祖様が迷わないように願いを込めてたく、迎え火と送り火に使用するオガラ(麻の皮をむいた茎の部分)も用意します。もし、玄関先で火を使えない場合、盆提灯を飾ることで、ご先祖様への目印となりますのでご安心ください。

以上、一般的なお盆について紹介してきましたが、地域によって風習や作法はさまざまです。今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、例年通りとはいえないかもしれませんが、感染に注意しながら、可能な範囲でご先祖様や故人を偲び、ご供養を行いましょ。

(清水誠葬具店副社長・清水ふじ代)



すぐに役立つ葬儀マナー⑧
～お盆について～

ストーリー

「すき間時間」活用で、企業をPR

ママ人材でSNS代行サービス



ストーリー (川崎市多摩区栗谷、☎044・440・7018)は、コロナ禍で非対面・非接触のニーズが高まる中、ママ人材を活用したSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)運用代行サービスを始めた。在宅でもこなせる「すき間業務」をママ人材が受託。企業に本業に集中してもらうのが狙いだ。

自社の商品・サービスを、FacebookやInstagramなどのSNSを駆使してPRする業務を代行する。具体的には、アカウントの取得から投稿、素材撮影、オンライン相談、レポート分析・改善提案までをカバーしていく。

自社商品を持っているが広報人材がいらない企業や、SNSで魅力を伝え若い人材の採用につなげた企業の利用を想定。

また「インフルエンサー」と呼ばれるブログやSNSで影響力を持つ人に対してもアプローチし、集客などに結び付ける。

代行サービスの初期導入費用は5万円。導入後のスタンダードプラ

ン(投稿3回、統計レポート付き)は月額9800円。プレミアムプラン(投稿8回、自動いいねシステム導入など)は月額4万9800円。

同社の松尾実里社長は「結婚や出産を機に離職する女性は能力が高い人材が多いです」としており、中小企業の積極的な活用を呼び掛けている。

取材メモ

同社は日本最大級と言われるマンモス園・柿の実幼稚園の近くに立地。オフィスにはカフェも併設している。1000人以上の園児の母親を対象に、ママ人材発掘につなげる「ランチ会」を定期開催。主婦になったものの「働きたい」「社会復帰したい」と思っているママたちを対象にしている。そこで自分たちが活躍できる場があることを説明し、社会復帰に対する不安解消とともに、やる気を持ってもらっているという。

YMGe

美顔器製造で成長

「ジョイントワーク」で販路拡大

製造ベンチャー企業、YMGe(藤沢市本町、☎0466・53・9628)の美容関連事業が、コロナ禍でも成長している。これまで縁がなかった業界からの仕事を積極的に受ける「ジョイントワーク事業」の一端として始めたものだ。

東京・銀座の美容関連企業、B-by-C(ビーバイシー)の依頼により、美顔器「facepointer(フェイスポインター)」を極東精機製作所(東京都大田区)とともに製作。同製品は、美容雑誌「VOCE(ヴォーチェ)」で2020年上半期のリフトアップ部門で第3位になるなどのヒットを飛ばし、現在、月産5000~1万本ペースで量産している。

YMGeは2018年8月に設立されたばかりの企業。熱処理装置など加熱装置の設計を柱に、協業ネットワークを生かした金属・樹脂加工品の調達代行を手掛ける。「設計+商社」を目指す企業だが、販路拡大をにらみ1年前に始めたのが異業種企業とコラボする「ジョイントワーク事業」だ。

「中小製造業の場合、1社だけだと、できる範囲が限られてしまいますが、他業界でも信頼が重なれば一緒にやれます」と月岡敬太郎取締役。今では美容器関連の売上高比率が4分の1になるほど高まっているという。



結城商事輸送

女性社長が奮闘する物流会社

温湿度管理の輸送で販路開拓

結城商事輸送(横浜市港北区菊名、☎045・434・3388)は、商品保持のための「温湿度管理輸送」の販路を開拓する。同社は食品加工業向けに温湿度管理を要する原材料の輸送を担っていることから、そのノウハウが樹脂部品や精密部品にも使えるとしており、各企業に提案していく。

1962年創業の同社は、業界では珍しい女性社長が率いる。結城恵美社長は自らも大型免許を取得しドライバー経験がある。社員数は約50人。「全国トラックドライバーコンテスト」で入賞した社員もいる。

強みは温湿度管理ができる輸送。対応する倉庫も保有している。温度管理ができる大型ウィングトラックや大型タンクローリーを中心に、本州全体をカバーする。

ただ、新型コロナウイルスの影響は物流業界にも直撃しており、同社も例外ではない。こう

した中で、結城社長が着目したのが2トン、4トン車に対するニーズだ。同社の場合、「中長距離輸送」を主体としているが、今後は近距離輸送の案件を増やそうとしている。

「(近距離輸送だと)時短でも働けるようになり、女性ドライバーの獲得にもつながります」(結城社長)とし、自ら外回り営業に出て、新規開拓に注力。具体的には、シビアな品質管理が求められる精密部品などを想定する。

結城社長は「品質に関わる温湿度管理のニーズは年々高まっています」と、付加価値の高い物流を提案していきたいとしている。

